



# ひがし野

教育目標  
 真理(まこと)を求める生徒  
 情操(こころ)を深める生徒  
 身体(からだ)を鍛える生徒

令和2年



高め合い 磨き合い 感動し合い  
 「愛」いっぱいの真岡東中

## 「心意気」を遺憾なく発揮した運動会

～闘志を燃やせ 旗を揚げろ 「Victory」の道を走り出せ!～

9月12日から1日延期しての今年度の運動会。感染予防のため、規模を縮小し、種目数を減らし午前中のみの実施ではありましたが、生徒たちは題字のスローガンの通り、闘志を燃やし、学級が一意団結し、担任と心をつなげて熱い運動会になりました。保護者の皆様にも、各家庭2名までという制限をお願いすることになりましたが、感染予防等にもご協力いただき、成功裏に終えましたことに心から感謝申し上げます。

真岡市内の小中学校でも、判断は様々でしたが、多くの保護者の皆様から、「保護者として、こうして頑張る子どもの姿を見ることができて感謝しています。」といった声をたくさんいただき、改めて今回の判断をしてよかったと胸をなで下ろしました。

また、運動会終了後は、多くの保護者の方々にテント等の後片付けにご協力いただきました。昼食の時間になるにもかかわらず、多くの保護者の方々が主体的に片付けをして下さり、教職員一同、改めて感謝申し上げます。校長として、このように献身的に学校にご協力下さる保護者の皆様に支えていただいていることを、「有り難く」受け止めさせていただきました。



【3年生綱引き】

頭脳を使う新しい綱引きでした。



【2年生玉入れ】

作戦を練って役割分担が必要な玉入れでした



【1年生大玉リレー】

4人の息が合わないと難しい種目でした。

## SNSの使い方 大丈夫ですか？

今や、多くの小中学生が持ち、日常的に使用している携帯電話。分からないことを調べたり、好きな音楽を聴いたり、家に帰ってからも友達と会話できたりと便利極まりない携帯電話です。電車の中や病院の待合室では、ほとんどの大人が携帯電話を見ている光景を目にします。それぐらい、大人にとっても、今や欠かせないアイテムになっています。

その一方で、携帯電話等でのSNS(ソーシャルネットワーク)は、犯罪やいじめの温床にもなっています。

以下、いくつかの事例を紹介します。

### 【事例1：なりすまし】

学校での友達とのトラブルに関する悩みをSNSに投稿したところ、自称・同級生という男性から返信。優しい言葉で、相談に乗ってくれるということで、毎日数回やりとりをする。毎日のやりとりの中で親近感を覚え、実際に会おうと言うことに。場所は東京。指定された場所へ行ってみると、同級生とはほど遠い中年男性。危うくトラブルに巻き込まれるところだった。

### 【事例2：裏アカ(裏垢とも呼ばれている)】

学校の友達数人で作ったLINEグループ。学校での出来事や部活動のことなど、他愛もないやりとりだったが、その毎日のやりとりで友達と繋がっている安心感があった。ところが、ある日、友達から裏アカウントの存在を知らさせる。裏アカでは、仲が良いと思っていた友達が自分の悪口で盛り上がっていることを知る。友達が信じられなくなり、教室へ入れなくなってしまった。

### 【事例3：写真の拡散】

仲の良い友達3人で遊びに行ったときのこと。休日ということもあり、ちょっぴりお化粧をして出かけた。その時に撮った写真の一枚を、友達が何気なくSNSに投稿。ところが、その翌日。その写真は、クラスの男の子とつきあっているかのように偽造されて、多くの友達に拡散されてしまった。

上記の事例は決して人ごとではありません。携帯電話などの通信機器を与えたのであれば、保護者の方の責任においてその危険から守ってあげてください。

大切なことは、SNSには多くの危険が潜んでいるということを話し合うことです。そして、家庭での約束事を決めるべきです。SNSなどのトラブルに関することは、学校では何もしてあげられません。取り返しのつかない事件になる前に、話し合ってください、トラブルを回避できることを切に願います。

